

## 山行記録 4年越しの大同心-そして敗退

OWCC 中川和道 20230115

大同心を登ろうぜ、と松田明博さんと決めたのは4年前(2019年)。2020年1月コロナ襲来以来、毎年々々中止々々。今回やっと実現したものの、ブランクと中川の高齢もあって最終ピッチの3ピン目で敗退した。

概要 2022年12月29日夜-23年1月1日 OWCC 中川和道+松田明博 八ヶ岳大同心南稜ルート  
 12/30 830 赤岳山荘駐車場 着 晴-10℃無風 930 同 出発 1200 赤岳鉱泉着 テント設営  
 12/31 320 起床 晴-15℃無風 夜中には-20℃にも 550 テント発 4 パーティー程に抜かれる。  
 全パーティが台湾隊。で大同心沢奥壁へ。小同心大同心とも入山ゼロだった 中川 大バテにバテる 906 大同心基部(-15℃)にて登攀装備装着 940 大同心南稜ルート登攀開始 松田-中川 松田-中川 中川-松田でやっとピナクルに。ピナクルからは 松田-中川。1200 最終ピッチ基部着 1210 最終ピッチ登攀開始 松田-中川 1240 登攀中止。下降開始。1530 テント着 -10℃  
 1/1 800 起床 1030 テント地 発-5℃ 無風 稜線は地吹雪が時々見え、くもりと晴れが猫の目のように移る 1230 赤岳山荘駐車場 着

### 1. 記録

12/29 22:00 生瀬発。今回は松田-中川の2名パーティだ。12/30 7時すぎに諏訪湖付近を通過。26日に日本海側は大雪だったのだが、諏訪湖付近には雪が少し残っている程度。雪がほぼ皆無の八ヶ岳がたっぷりだった以前の記憶に比べれば、これでも「4年ぶりの雪山に帰ってきた」との感慨ひとしおだ。

12/30 8:00 美濃戸口で登山計画書を提出し、山岳警備隊の方にお話を聞く。権現岳と赤岳の間で事故があり救助隊が活動していますとのこと。気を付けて行ってきますと別れた。美濃戸までの道路が通行不能でないことを祈りつつ車で発進。8:30 赤岳山荘駐車場着。晴-10℃無風。身支度をして9:30 駐車場発。美濃戸山荘に着くと、柳川北沢の入口の看板(写真1)の前で10人ほどが困り顔でぼそぼそと話し込んでおられる。事故なので救助を手伝って下さいと言われてたら大変だ、と思って近づいたら、「行者小屋がコロナのため急きょ営業中止で困っている」という。おお、えらいことだ。12/31に下山されるよう日程変更 or 他の山域に急きょ転進するか、慎重な検討が必要ですねとアドバイスなどして別れた。

柳川南沢の道を赤岳鉱泉へと向かう。気温は-12℃とほどほどに低いので、鉱泉の沢には氷の華が咲いていた(写真2)。4年ぶりで懐かしかった。第3架橋から大同心小同心を望む(写真3)。青空を背景に大同心がそびえ、目指す南稜ルートが一望できる。ピナクルがくっきりと我々を誘っている。真



写真1. 行者小屋営業中止の掲示。山小屋の大変さがよく分かる。

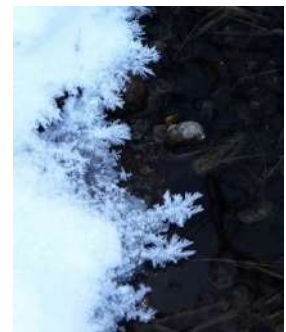


写真2. 氷の華。

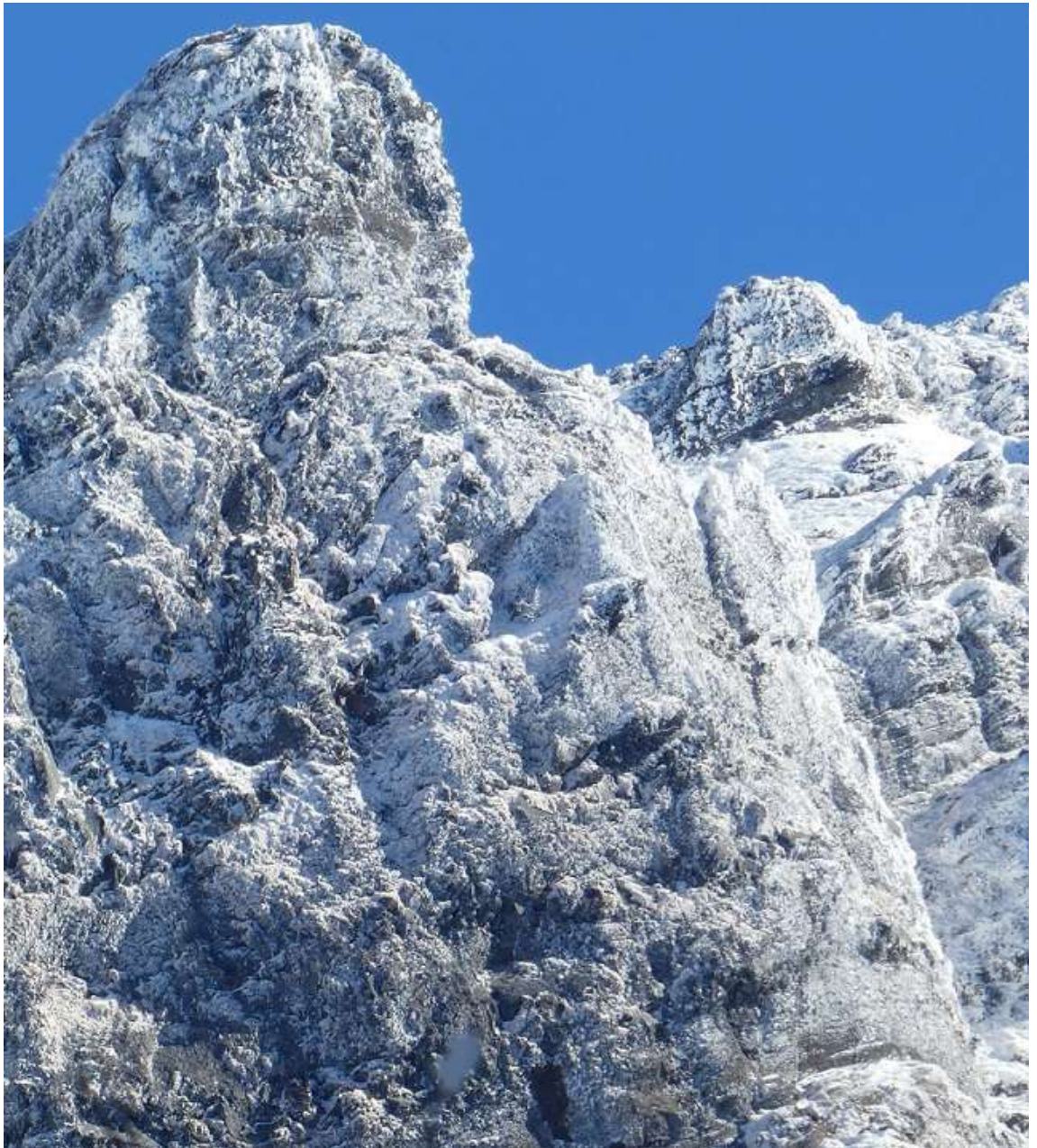


写真3. 第3架橋から望む大同心南稜ルート of 全容。えらく苦労させられたピナクル直下の垂壁がよく見える。

っ白に着雪したときに比べると今回の着雪は 30%ほどだろうか。12:00 過ぎに赤岳鉱泉着。さっそくテントを張り、休んだ。

12/31 3:20 起床。夜中には-20℃にも冷えたが、今は晴-15℃無風。5:50 テント発、大同心稜を登る。4パーティー合計 15 人くらいに次々と抜かれる。何と、全パーティーが台湾隊だった。ガイド引率のツアーなのだろうか、全員が大同心沢奥壁から横岳へ登り赤岳から降りるのだという。明るくなってから取付きを眺めると、何と、小同心大同心とも登攀者ゼロだった。ここで中川は大バテにバテた。9:06 大同心基部着-15℃弱風と寒い。登攀装備装着。9:40 大同心南稜ルート登攀開始。ピナクルまでは3ピッチ(ルート図参照)。松田-中川 25m、松田-中川 20m、中川-松田 30m で登った(松田-中川の表記は松田リードをあらわす)。1ピッチ

目の取付きには昔どおりのボルトが残されていた(写真 4)。ピナクルまでのルートは中川の記憶では写真 3 のピナクルのほぼ右端ぞいに登るもの(日本登山大系「八ヶ岳」のとおり)であったが、無雪期に登られるようになったせいか、ペツツルボルトが打たれている今回のラインは廣川健太郎「チャレンジ！アルパインクライミング」のルート図に酷似していた。

松田が 1 ピッチ目を登っている途中、単独の方が来られ、確保中の中川に「硫黄岳に行きたい。この先、どう登るのか？」と尋ねる。驚いて道の間違をお教えしたらスマホを取り出し、赤岳鉱泉からの道を正しく右に曲がったはずなのだが、明らかに険しすぎる道ですよね、引き返します、とのお答え。大同心基部の下りは危険なので危険を感じたら迷わず私たちを呼んで下さい、ロープでお助けしながら一緒に下りましょう、とお話しました。気を付けながら何とか下られたようで、ほっとした。



写真 4. 大同心南稜ルート取付きには思い出のボルトが。

さて南稜ルートをペツツルボルトに導かれながら登ってみると、ルートが変わっていて、これが大変。ガバツと大きなホールドがあるものの、何とも傾斜がきつい。無雪期にそんな登りがいのあるラインを誰かが引いたのだろう。廣川さんのルート図は無雪期 11 月 8 日のもののようなので、注意が必要だ。今回は、松田も中川も 1 回ずつそれぞれ墜落そのもののムーブを強いられた。中川リードのピッチでは、中川は思わず手袋をぬいで 4 ムーブを登った。フロントポイントのアイゼンになる前、東海山岳会の伊藤正俊さんは 10 本アイゼンの前爪を目の高さまで上げて引っ掛け、マントリングとの合わせ技で、かけ声エイツと藤内壁を登っておられた。その姿を思い出しつつ中川は少しだけ足を上げ、神頼みでやっと登った。冷汗がどどつと吹き出た。写真 3 のピナクル直下の垂直部がその箇所だ。

ピナクルからは 松田-中川 15m で 12:00 最終ピッチ基部に到着。12:10 最終ピッチに松田-中川で登攀開始したが、下部に比して、思いのほかエビの尻尾がびっしりついており、それらを徹底的に払い落しての登攀となった。ここまでで中川も松田もかなり消耗しており、風も強くなった。先の見通しがないので、3 ピン 8m 登ったところで、12:40 ついに登攀中止を決める。残念・・・。

下降を開始し、大同心沢奥壁の終了点にある懸垂支点から 50m 懸垂。大同心稜に降り立ち、下りにかかる。くたくたに疲れて 15:30 テント着、-10℃であった。

1/1 8:00 起床。1030 テント地 発。-5℃ 無風 稜線は地吹雪が時々見え、くもりと晴れが猫の目のように移る。12:30 赤岳山荘駐車場着。「縦の湯」で汗を流し、帰路に着いた。松田さんには本当にお世話になった。感謝、感謝だ。

帰宅後、中川は 1/3 夜からのどに異変があり、1/4 昼に発熱 38℃、1/5 の抗原検査でコロナ感染が確認された。11 日まで自宅療養で大きな後遺症もなく回復。年賀状を書かずに入山した不届きものを大同心だか横岳の権現様だかが罰したのかも知れない。いやはや、冬山山行でコロナ感染とはと、恐れ入った次第であった。

## 2. テクニカルノート：

- ・南稜ルートは無雪期登攀のあおりを受けたのか、アクロバティックな動きが多く、中川が昔何度も登ってきた印象とはすごく違った。

- ・松田が 1 回、中川が 1 回、ぎりぎりの登攀を強いられた。中川は手袋を脱いで登った。百丈岩で言えば、井戸ルート(左リッジルート)を手袋 2 枚+着雪で安定して登る実力が要だと感じた。
- ・中川のスタミナ不足がまたまた大問題に。トレーニングを積み重ねる必要がある。
- ・中川のエアマットが初日に故障。マットなしでザックの上に 2 泊。いや、冷え込んで疲れてしまった。反省点である。

